

コロナ禍における動画配信の効果

—— 附属幼稚園の事例から ——

小野 貴之*・水内 幸恵*・神永 直美**

(2020年10月21日受理)

Effects of Video Streaming during the COVID-19 Pandemic: The Case of Ibaraki University Kindergarten

Takayuki ONO, Yukie MIZUUCHI and Naomi KAMINAGA

キーワード: コロナ禍、動画配信、附属幼稚園、事例検討

新型コロナウイルス(COVID-19)の国内の感染者数が増加したことから、茨城大学教育学部附属幼稚園(以下、本園)は、2020年3月2日から5月31日まで修了式や始業式、入園式を除き、長期にわたり休園となった。外出を控えざるを得ないことから、幼児の生活は友達との交流や外遊びの機会が奪われるなど一変した。そのような状況の中、本園では、幼児の家庭における直接的・具体的な遊びの体験を促すとともに家庭との情報を共有できるよう、いち早く YouTube による動画配信(限定公開)に着手した。同じような思いで全国の様々な幼稚園でも色々な取組が広がりを見せた。文部科学省では、そのような取組を「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集」¹⁾として2020年5月にまとめ、各園に配付した。それは、各園の多様な取組のエッセンスを紹介しているが、幼児の反応等には触れられていない。本稿は、本園で行った動画配信の取組が幼稚園再開後の幼児と教師の信頼関係づくりや教育活動へのつながりに効果があるかどうかを幼児の反応をもとに考察した。事例を検討した結果、動画配信により幼児が幼稚園と切れ目なくつながっているという気持ちをもてたこと、教師に親しみを感じることができたこと、保護者が動画で喜んでいる幼児の姿を見て安心感を得たこと、幼稚園のコロナウイルス感染予防対策についての情報を得ることで新しい幼稚園での生活が予想できたこと等の効果がみられた。

はじめに

本園は、豊かな人間理解を根底とする社会性の芽生えを重視し、基本的な生活習慣の育成を図るとともに、自主性・創造性を養い、明るく健全な心身の発達を助長し望ましい人格の形成を目標としている。「幼児期は、自分の存在が周囲の大人に認められ、守られているという安心感から生じる安定した情緒が支えとなって、次第に自分の世界を拡大し、自立した生活へと向かっていく」²⁾と

*茨城大学教育学部附属幼稚園 **茨城大学教育学部

捉えており、幼児が安心感をもって能動的に遊びや生活を送ることが、本園の目標を達成していく上で重要であると考えます。

また、幼稚園教育要領解説に「教師との信頼関係を結ぶことができた幼児は、自分から興味や関心のあるものに関わり、次第に友達と共に過ごす楽しさや喜びを味わうようになる。このようにして得た安定感は、心の健康を育てる上で重要であり、幼児が自立の方向に向かっていく上でも欠くことができないものである。心と体の調和をとりながら健康な生活を営まれていくことに留意しつつ、一人一人の幼児との信頼関係を築いていかなければならない。」³⁾と示してあるように、教師と信頼関係を結び、安心感をもつことが幼稚園で健康に過ごしていくためには重要である。

しかし、2020年1月後半から日本における新型コロナウイルスの感染拡大し、3月から多くの学校や幼稚園が休校園となった。本園も2020年3月2日から休園となるが、その時には休園がいつまで続くのか見通しがもてない状況であった(結果的には5月31日まで休園)。家庭でも、通常の社会生活を送ることが困難となり、幼児は不安感を募らせることになったと思われる。そのような状況の中で、幼児が健全に生活していくためには幼稚園として何ができるのか、幼児(家庭)と幼稚園のつながりを切らない方法はあるのかを考え、休園期間の平日は毎日、動画共有サイトの一つである「YouTube」⁴⁾の中の限定公開という機能を使った動画配信を行うこととした。現在は、Youtuberが小学生男子の就きたい職業ランキング1位⁵⁾になるくらいであり、幼児にとってもYouTubeは大変身近なものになっていると言える。幼稚園からの動画を視聴することで、幼児の直接的、具体的な遊びを促すことにつながったり、幼稚園のことを思い返したり、クラスの担任の姿を見て安心感をもったりできるのではないかと考えた。本研究では、YouTubeで動画配信を行ったことによる幼児の反応や登園後の様子の事例、また保護者の感想等に焦点を当てて分析し、その効果について検討した。今後の保育の在り方を考察する一助としたいと考える。

研究の方法

次のような方法で、研究を進めた。

1. 休園中に本園で録画・編集・配信した動画を分析する。
 - ・内容から7つのカテゴリーに分類し、再生回数等を比較し分析する。
2. 動画配信の効果について検討する。
 - ・保護者への電話による聞き取り調査を行う。1週間に1回は担任が各家庭に電話をし、幼児の様子を聞く際に、動画を視聴した幼児の反応や、保護者の感想を聞き取る。
 - ・幼稚園再開後の幼児の様子を観察し事例にまとめる。

研究の内容

1. 配信動画の分析

動画は、平日には毎日配信することを目標とした。在宅での生活が強いられる中、幼児が幼稚園の教師に画面を介してではあるが会うのを楽しみに待ち、つながりを感じられればと考えたからである。録画、編集等は教師の過重な負担とならないよう、当初から手軽にできる方法をいろいろと

模索した。結局スマートフォンですべての工程を行う方法を選択した。編集は、編集アプリを使用した。声の大きさの調整、文字や音楽の入れやすさ、BGM とのバランスの取りやすさ、フォントや色、スタンプの豊富さなどから使いやすいと判断したからである。

内容については、5 日分程度を見通して各教師が提案し相談して決めた。内容によって、登場する人数や配役等を決定した。多様な内容を心がけ、幼児が興味、関心をもって視聴したり、まねしたりできるものとした。YouTube での限定公開としたので、アップ後にその URL をマチコミメールで家庭に一斉送信するという方法をとった。

配信期間は、2020 年 3 月 3 日から 5 月 29 日までである。配信した内容は以下の通り（表 1）であった。生活、運動、自然、製作、物語、音楽、情報の 7 つのカテゴリーで分類した。幼児数は、2019 年度（3 月 31 日まで）が 115 人、2020 年度（4 月 1 日から）は 128 人である。動画は最短が 4 分 21 秒、最長が 24 分 12 秒、平均時間は 9 分 31 秒であった。

表 1. 配信動画の配信日と内容等

	配信日	内容	分類	再生回数
1	3月3日	ひなまつの歌と紙芝居	音楽・物語	530
2	3月4日	体遊びとなわとび	運動	318
3	3月5日	絵本『ぐるんぱのようちえん』	物語	241
4	3月6日	体操『こんちゅうたいきょけん』	運動	279
5	3月7日	エプロンシアター『アンパンマン』	物語	183
6	3月10日	人形劇『3びきのこぶた』	物語	216
7	3月11日	体操『ちょっとだけたいそう』とクイズ	運動・生活	228
8	3月12日	絵本『ぐりとぐら』（一部劇あり）	物語	180
9	3月12日	年長組の修了式について	生活・情報	142
10	3月12日	ゲストさんとうた（年長児限定）	自然・音楽	36
11	3月14日	劇『いただきバス』と体操『エビカニクス』	物語・運動	197
12	3月16日	修了のメッセージと歌『ともだちラララ』	生活・音楽	158
13	3月17日	そらとぶわっかを作ろう	製作	162
14	3月18日	ふれあい遊び	運動	144
15	3月19日	絵本『おじさんのかさ』	物語	123
16	3月23日	劇『ねずみとらいおん』	物語	229
17	3月24日	ボールで遊ぼう	運動	130
18	3月25日	園庭のはるさがし	自然	120
19	3月26日	影絵『ねずみのすもう』	物語	128
20	3月30日	フラフープで遊ぼう	運動	139
21	3月31日	ヘビダンスと歌『ちいさなせかい』	音楽・物語	126
22	3月31日	お別れの先生のお話	生活・情報	199
23	4月6日	始業式について	生活・情報	173



写真1. ひなまつの歌と紙芝居(3月3日)



写真2. 空とぶわっかを作ろう(3月17日)



写真3. ヘビダンスと歌(3月31日)

24	4月7日	入園式について	生活・情報	134
25	4月8日	先生と一緒に園歌を歌おう	運動、音楽	327
26	4月10日	新しい先生の紹介と 体操『バナナくんたいそう』	生活 運動、音楽	305
27	4月13日	ムウくんの庭(園庭)の自然を見よう	自然	234
28	4月14日	体操『しゅりけんこんじゃ』 牛乳パックでしゅりけんをつくろう	製作・運動	211
29	4月15日	色々な動きで進んでみよう	運動	187
30	4月16日	パネルシアター『おおきなかぶ』	物語	180
31	4月17日	新聞紙で遊ぼう	製作	163
32	4月20日	絵本『ぞうくんのさんぽ』	物語	156
33	4月21日	新型コロナウイルスについての話	生活・情報	140
34	4月22日	絵描き歌	製作・音楽	132
35	4月23日	紙芝居『おたまじゃくしの101ちゃん』 折り紙「かえる」	物語・製作	158
36	4月24日	パネルシアター『うさぎとかめ』	物語	147
37	4月27日	絵本『はらぺこあおむし』	物語	176
38	4月28日	ゲームとくるくるだこ	生活・製作	159
39	4月30日	タオルをつかって運動しよう	運動	126
40	5月1日	ギターの紹介と歌『こいのぼり』	音楽	138
41	5月7日	「何の音かな?音遊び」	音楽	117
42	5月8日	ペープサート作りとお話	製作・物語	138
43	5月11日	ジャガイモの植え付け	自然	120
44	5月12日	先生と踊ろう 園歌ダンス	運動・音楽	177
45	5月13日	わらべうた たけのこ遊び	音楽・運動	118
46	5月14日	渡邊先生の話(保護者向け)と運動	情報・運動	89
47	5月15日	渡邊先生と一緒に遊ぼう	運動	107
48	5月18日	ビンゴゲーム・園歌ダンス	生活・ 運動・音楽	144
49	5月19日	登園の流れについて・ハンカチ遊び	生活・情報	159
50	5月20日	おやつや昼食について 袋でボンボンを作ろう	生活・製作	152
51	5月21日	人形劇『おむすびころりん』	物語	167
52	5月26日	降園の流れの話とウサギのハルちゃんを紹介	生活・自然	173
53	5月27日	ヨガを楽しもう	運動	105
54	5月28日	ぱっちゃんカエルをつくろう	製作	127
55	5月29日	園歌ダンスを踊ろう!	運動・音楽	194



写真4. 新聞紙で遊ぼう(4月17日)



写真5. 新聞紙で遊ぼう(4月17日)



写真6. ゲームとくるくるだこ(4月28日)



写真7. 園歌ダンスを踊ろう!(5月29日)

<結果と考察>

・3月（2019年度、幼児数115）の動画配信回数は22回（うち年長児限定1回）、平均視聴回数は202回（最高530回、最低120回（年長組限定配信を除く））であった。

・4、5月（2020年度、幼児数128）の動画配信回数は33回、平均視聴回数は162回（最高327回、最低89回）であった。

・最高視聴回数は、配信最初の日（530回）であった。初めての配信で高揚感が高まったのであろう。また、教職員が全員登場して、『ひなまつり』の歌を歌ったことで、自分の担任とのつながりを感じたのであろう。実際に、後日幼児が「ママに『もういい加減にしないで』って言われるくらい毎日見たよ」と話していた。

・配信内容の分類（カテゴリー別）は表2の通りである。（それぞれの内容について、全体に示す割合を求めたものであり、1つの動画にいくつかの内容が含まれるものがあることから、合計は100%にはならない。）「運動」が多くなっているのは、家庭で過ごす運動不足が懸念されると考えたことから、意識的に体を動かす遊びを取り入れ、運動を促そうとしたためである。

3月に「物語」が多くなったのは、急に配信を決めたので、絵本の読み聞かせ等、いつも担任がクラスで行っており、取り組みやすいものを配信したことによる。

・表には記していないが、教師の登場数が多いと視聴回数が増える傾向が見られた。「自分の先生」が語りかけ、一緒に活動する方が嬉しいしつながりを感じるのであろう。3月の方が、4、5月よりも平均視聴回数が多いのも、親しみのある先生が登場する動画と新しい先生が登場する動画の違いなのかもしれない。

・同じ動画を複数回（違う日に）見て、一緒に歌ったり踊ったり、運動したりして活動するイメージをもっていたが、視聴回数からはそのような行動に結びついていなかったとも読み取れる。しかし、現在のYouTubeの仕様が1つのアドレスから一定期間に1回しか再生回数がカウントされないようになっており、一定時間内に同じ動画を何回再生しても再生回数は1回⁶⁾ということなので、幼児の特徴として配信されたときに何回も繰り返し視聴することがあっても視聴回数に反映されていないのかもしれない。また、パソコンではなくスマートフォンで視聴していた家庭が多かったことも、(URLからの視聴となるため) 影響しているとも考えられる。

2. 動画配信の効果について

<保護者への電話による聞き取りから>

休園の期間は、1週間に1度の割合で各家庭に担任から電話をし、幼児の様子、困っていることはないかの確認をした。そのときに、動画配信の感想や幼児の反応などを聞き取った。それをまとめたものを次に示す。

・「子どもが毎日 YouTube をとても楽しみにしている」「何度も見て楽しんでいる」「一緒に体を動かしてい

表2. 配信内容の分類(カテゴリー別)

内容	3月(2019)	4, 5月(2020)
生活	4 (19%)	9 (27%)
運動	8 (38%)	12 (36%)
自然	2 (10%)	3 (9%)
製作	1 (5%)	8 (24%)
物語	10 (48%)	8 (24%)
音楽	4 (19%)	9 (27%)
情報	4 (19%)	5 (15%)

る」「音楽に合わせてダンスをしている」「先生と一緒に～しているという気持ちでいる」などと好意的な回答が大半であった。親子で楽しみにしていると話す保護者も多かった。

- ・修了式や入園式に関する動画を配信したときには、「流れを説明してもらい、イメージをもって参加することができた」「子どもが何度も見て、練習していた」「保護者の動きもわかりやすかった」「修了式では、全く練習などしていない幼児たちが堂々としていて、とても感動した」などの感想が寄せられた。

- ・「幼稚園(担任)と自分がつながっているという思いがもっている」「特に担任が登場するのを心待ちにしている」「いつ幼稚園に行けるの?」「明日、幼稚園に行きたい」と幼稚園を自分の行く場所として認識している様子うかがえた。教師や幼稚園への親しみの増幅を語る保護者も多かった。特に、新入園の幼児にとっては、休園が続く中で自分の所属意識を高めることができたようである。

- ・「急な休園になってしまったが、すぐに動画配信が始まったことで、幼稚園(担任)と気持ちがつながっていることを感じた」「このような状況の中で動画を配信していただき、ありがたかった」「先生も身体に気を付けてください」「頑張ってください」などと、感謝の気持ちや激励を伝える保護者が多くいた。

- ・担任が登場すると「この人が担任の先生だよ」と家族に教えたり、「〇〇先生だ!」と言って喜ぶ姿が見られたりしたとの報告を数多く受けた。

- ・「休園前からムウくんの庭(北面園庭)のオタマジャクシのことがとても気になっていて、よく話していたので、動画でオタマジャクシの様子を見ることができてとても喜んでいる」と話す保護者がいた。その後、幼児が、「オタマジャクシはこれから後ろ足が生えてきて、そのあとに前足が生えてくるんだよね」とうれしそうに電話口で話していた。

- ・「(幼稚園で飼っているウサギの)ハルちゃんのお世話をしている動画がお気に入り、何度も再生して楽しんでいる」「『早くお世話をしたり、撫でたりしてみたい』とうれしそうに話している」と幼稚園への期待が高まっている様子を語った保護者がいた。

このように、毎日の動画配信を通して、幼稚園(教師)と幼児・保護者とのつながりを確認したり新たなつながりが生まれたりしたことが認められた。また、幼稚園の新型コロナウイルス感染予防の対応をはじめ、担任や園内の環境を紹介したりすることで、保護者も幼稚園再開後の生活の様子を想定することができ、安心感をもつことができたと考えられる。

<事例の検討から>

6月からの幼稚園再開となったが、その時に、動画で配信していたことと保育が自然につながるよう、そのことにより幼児が安心して幼稚園での生活を始められるようにしたいと考えた。各クラスでの環境構成に、配信した内容に応じた製作のコーナーを設定したり、紹介したダンスや体操等を踊る機会を設けたり、絵本を置いておいたりした。その時の幼児の様子を観察し、事例としてまとめた。また、幼児から配信した動画について友達や教師に語る姿も見られたため、それらの会話の内容も整理した。

○事例1 「幼稚園の歌のダンスを踊ろう」 幼稚園再開後 5歳児 6月～7月

- ・クラスで活動をしている際に、園歌のダンスについて話すと、「園歌のダンス知ってる」「YouTube で見たよ」「お家でいっぱい踊ったから、もう覚えているよ」等の声があがる。「みんなで踊ってみよう」ということになり、曲をかけると多くの幼児が自信をもって踊っていた。踊り終わると、笑顔で「もう一回やりたい」と話

す姿も見られた。(写真8)

・七夕を全学年で楽しめるように、七夕の会を行うことにした。最後に全員で園歌を歌うと、年長、年中、年少組の幼児の中にその場で園歌ダンスを踊る姿が見られた。そこから踊りたい幼児が前に出て踊ることを促すと何人かの幼児が前に出てきた。それを見て、それまで踊っていなかった幼児も踊るようになり、みんなであれしそうな表情をして踊る様子が見られた。一体感を味わっているようだった。(写真9)



写真8. 園歌のダンスを踊ろう



写真9. 七夕の会での様子

[考察]

4月、5月が休園となり、幼児は長い間幼稚園での生活を離れることになった。そのような中で、園児が大好きな園歌を教師が歌い歌詞を紹介したり、振りをつけて配信したりした。進級の幼児は幼稚園を思い出し、新入園の幼児は園歌を知り親しみがもてるようになるのではないかと考えてのことである。幼児は、幼稚園から動画配信された馴染みのある園歌ダンスを視聴することで、自分が「附属幼稚園の一員」という意識を改めてもつことができ、それが久しぶりの幼稚園生活で安心感を得られることにつながったと考える。また、七夕の会の様子から、配信動画を見ていたことが共通の体験となり、幼稚園再開時にはすでに多くの幼児が園歌ダンスの振りを一体感をもって踊っていたことから、自分が知っているダンスを友達みんなも知っていることに安心感やうれしさを感じることができていたのではないかと思われる。

○事例2「円滑な園生活の再開」幼稚園再開後 6月

幼稚園再開が決まると、フェイスシールドの保管方法やトイレでの手の洗い方、拭き方、密を防ぐための並び方等のコロナウイルス感染予防対策など、新たな園での過ごし方について配信した。教師が幼児役や大人役になって演じ、養護教諭が説明を行った。

幼稚園再開後、多くの幼児がフェイスシールドの保管や使用、トイレでの手の洗い方や並び方等を「知ってる、知ってる」と言いながら円滑に行く様子が見られた。また、クラスでの集まりの際に新型コロナウイルスの話やコロナ対策についての話をすると真剣な表情で聞く姿が見られた。その後、幼児から「ソーシャルディスタンスを守らないといけないね」「3密にならないようにしようね」等の声があがった。幼児がコロナ対策を意識しながら生活していくことの大切さを感じている様子が伺えた。また、おやつや弁当の食べ方が、今までとは大きく変化した(各クラスで食べていたのを、プレイルームに常設のパーテーションを設置したテーブルで食べる)が、それもスムーズに行うことができた。(写真10)



写真10. プレイルームでの食事の様子

[考察]

幼稚園再開にあたり、コロナウイルス感染予防対策についての動画を配信することで、幼児には生活の仕方を知らせることができ、保護者には具体的な対応について啓発することができた。幼児も保護者も納得した様子で、新しい園生活の仕方(登園時の健康チェック、手洗いの仕方、トイレの使い方、食事やおやつとり方など)へとスムーズに移行する様子が見られた。そのことから、この動画配信は園生活を円滑に再開するための情報伝達の役割を果たすことができたと考えられる。幼児の言葉から、動画の配信を通してコロナウイルス感染予防対策をしていくことの必要性について意識したり、考えたりする契機となったのではないかとと思われる。また、保護者にとっても、2020年6月に報告された「保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響に関する調査」⁷⁾によると、園に寄せられた保護者からの相談内容で、最も多かったのが「園でのコロナ予防対策」を知りたいというものだったことから、保護者にとっての一番の心配事である幼稚園の対策を動画で見ることによって、安心感が生まれたのではないかと考える。

○事例3 「これ見たことある!」「知ってるよ」 幼稚園再開後 5歳児6月

手裏剣やくるくる凧等の作り方を動画で見て知っている幼児が、製作コーナーに材料が置いてあるのを見て、「これ作り方知ってるよ!」「作ってみる」と話しながら遊び始める姿が見られた。

幼稚園が再開してすぐに、「先生、YouTube 見てたよ」と話す幼児がいたり、同キャンパス内の幼児の兄、姉にすれ違ったときに「〇〇先生でしょ、うちの弟のことよろしくお願いします」と声を掛けられたりと、始業式だけしか会っていない幼児もその家族も親近感をもって声を掛けてくるということがあった。

また、「先生が出ている動画おもしろかったよ」と話しかけてくる幼児や、それを聞いていた幼児が「YouTube でやっていたギターを見せて」と興味をもった様子で話す幼児などがおり、まだ数回しか会っていない幼児とも打ち解けて保育を開始することができた。



写真 11. YouTube で見た先生のギターを見せて

[考察]

新型コロナウイルスによる休園によって、いつもとは異なる状況の中で久しぶりの登園となり、幼児たちは少し緊張している様子が見られた。しかし、配信動画を観たり作ったりしたことがある材料が保育室に置いてある(製作のコーナー)ことで、遊びの続きとして取り組むことができたのではないかと考える。

また、配信動画に担任が登場すると、多くの幼児が喜んだり保護者に声を掛けたりしていたことから、直接会うことができない期間が長期にわたり続いていたが、動画を通して担任やその他の教師とのつながりを感じることができていたと思われる。様々な動画を見る中で、教師のもつ雰囲気や話し方などを知ることによって安心感や期待感につながったのではないかとと思われる。

○事例4 生き物への関心

<オタマジャクシ、カエル> 幼稚園再開後 5歳児6月

「ムウくんの庭(北面園庭)に行きたい!」「池でオタマジャクシを探したり、虫を探したりしたい!」と話していた幼児がいたので、クラスみんなでムウくんの庭で遊ぶことにした。池の中にはオタマジャクシは

いなかったため、池に行きたいと言っていた幼児が少し悲しそうな表情をしていた、すると別の幼児が「カエルになってどこかに行っちゃったんじゃない？」と言って、今度はカエル探しが始まる。しかし、カエルも見つけることはできなかった。2週間後、ムウくんの庭で遊んでいると、小さなカエルを発見して喜ぶ。その後、虫カゴに入れて保育室に持って行くと興味を示し、「石が入っていないから、入れてあげようよ」と言って石を入れて足場を作る。その後、カエルに興味を示した幼児が集まってカエルの飼い方について図鑑や絵本を見て調べ始める。

<ウサギのハルちゃん> 幼稚園再開後 5歳児6月

クラスで集まった際に、幼稚園で飼っているウサギのハルちゃんの世話についての話になり、当番活動の話し合いが始まった。

ハルちゃんのお当番活動をしていると、ある幼児が教師に「幼稚園がずっとお休みだったとき、だれがハルちゃんにエサをあげていたの？」と心配そうに言った。教師が「お休みの間は先生が交代しながらエサをあげていたんだよ」と伝えると、「そうなんだ」と言って頷き、納得する様子が見られた。

[考察]

長い休園の間、園にいる生き物のことが気になっていたり、生きているか心配したりしていた様子が伺えた。園庭の中で生きている生き物や飼っている動物についての動画を配信することで、現在の動植物の様子を知ったり、飼っている動物の様子を見て安心したりすることができたのではないかとと思われる。

カエルを見つけてクラスで飼うことになった過程を振り返ると、休園前に興味を示していたオタマジャクシの興味を、動画配信によって継続することができたことが要因の一つではないかと考える。

○事例5 ムウくんの庭 幼稚園再開後 4、5歳児6月

配信動画のオープニング映像はムウくんの庭で撮影することが多く、ムウくん(ムウくんは本園のキャラクターで赤いクマ)のぬいぐるみやオタマジャクシ、草花等が映されていた。幼稚園再開後、ムウくんの庭に行くと、ムウくんのぬいぐるみが置いてあった木の上や小屋の中を見て、ムウくんや動画に出てきたオタマジャクシ、草花を探す幼児の姿が見られた。(写真12、13)



写真12. ムウくん、どこにいるの？



写真13. オタマジャクシはどこだ？

[考察]

動画のオープニングに馴染みのあるムウくんや園環境が登場することで、幼児はこれまでの幼稚園での遊びや生活を思い出したり、現在の幼稚園の様子について考えたりするきっかけとなったと考える。また、こういった体験を通して、幼児は長く休園している中で改めて幼稚園に所属している意識をもつことにつながったのではないかとと思われる。

研究の結果

<コロナ禍における動画配信の効果>

新型コロナウイルス感染予防のための長期休園後に、幼稚園を再開したときの幼児の様子は、報道等で伝えられていたような情緒が不安定になったり戸惑ったりするというよりは、「ステイホーム」という生活のなかで新型コロナウイルスについての知識を得て、幼児なりに現実を受け止めているように見えた。明らかに以前とは違い、手洗いの意味を理解してきちんと行おうとする様子が見られたり、「ソーシャルディスタンス」という言葉を会話の中で使い気にしていたりと、幼児なりに現実と真剣に向き合おうとしていることがうかがえた。報道を見たり、幼児を取り巻く周囲の大人が幼児たちに状況を伝えたりしてきたことで、意外にスムーズに新しい園生活の仕方を受け入れていたように思う。その幼児の様子は、本園が行ってきた動画配信の効果も少なからずあったのではないかと、聞き取り調査や事例などから推察することができる。これまで示してきたように、動画配信により幼児が幼稚園と切れ目なくつながっていたという気持ちをもてたことや、教師に親しみを感じることができたこと、保護者が動画を見て喜んでいる幼児の姿を見て安心感を得たこと、幼稚園の新型コロナウイルス感染予防対策についての情報を得ることで新しい幼稚園での生活が予想できたこと等の効果があったことは間違いない。新型コロナウイルス感染拡大で人との接触をできるだけ避けて生活することが当たり前になりつつあるが、幼児にとって人とのつながりを生活の中で感じることは成長にとって欠かせないことである。また、保護者と情報を共有することも安心した生活を送るために欠かせない。その新しい方法として、動画配信に多様な可能性を見出すことができ、今後の保育の在り方を模索していく際に生かしていきたいと考える。

注

- 1) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課『新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集』(2020)、4頁～21頁
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2020)、33頁
- 3) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2020)、147頁
- 4) 数ある動画サイトからYouTubeを選択した理由は、一般家庭にも広く浸透していると考えたからである。動画配信をできるだけ早急に行う必要があると考えたので、保護者に多くを説明する機会や時間等がなかったためである。また、YouTubeの「限定公開」とは、動画を上げた本人と一部のユーザーだけしか見られない動画である。動画を附属幼稚園ならではの教師と子どもとの関係を大切にしたいと考え、今回は限定公開とした。
- 5) 学研教育総合研究所「小学生白書 Web 版」(2019年8月調査)
- 6) KNOCK『再生回数のカウントの仕組みは？プロがわかりやすく解説』
https://knock.co.jp/knock_times/youtubebasic-views/ (2020年9月1日閲覧)
- 7) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策センター『保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響に関する調査 報告書 vol.1<速報版>』(2020)、31頁